

平成15年～17年度長野西高等学校SELHi 研究開発の概要

Abstract

本研究開発においては、実践的英語コミュニケーション能力をつけることを主目的とした文法訳読式授業からの脱却を図り、国際教養科および普通科全学年生徒対象にライティング及びスピーキング能力(アウトプット)の向上につながる効果的リーディング指導のあり方を研究した。根本的な授業改善の方策として教員による英語での十分なインプットを心がけ、創造的思考力を高める Q&A 活動やタスクを用いた豊富な言語活動の方法を模索し、基礎力定着のための徹底した音読指導を実践した。以上の指導の検証においては、高大連携の下、本校独自のライティングテストおよび評価基準などの評価法の研究開発に取り組み、指導法の効果を確認した。さらに日頃の授業を発展させ、実際に英語を使用する場面として国際交流の機会を積極的に設け、英語コミュニケーション力向上にどのような効果をもたらすかについて研究を行った。成果としては、校内での様々な交流活動やインターネットを活用した海外の高校生との Communicative な交流プロジェクトが英語学習への動機付けに有効的で、ライティング力の向上および異文化理解促進などの効果をもたらすことが量的・質的評価により検証された。

Key words: タスク アウトプット 長野西ライティングテスト email による国際交流

I 研究開発課題： 人種・民族や文化の違いを超えて他者と真のコミュニケーションを図ることができる英語能力を育成するための指導方法の研究開発

II 課題の設定理由

英語はコミュニケーションの手段であるという認識に基づき、文法訳読主体の授業から実践的英語コミュニケーション力を伸ばすこと重点を置いた授業へと転換を図る。そのために、

- ① 授業における指導方法、および指導を検証するための評価法の研究開発を行う。さらに
- ② 世界の多様な文化的背景を持った人々と積極的コミュニケーションを図ることのできる人材育成のため、global citizen として考え行動し、異文化を理解し尊重する態度の養成について研究する。

III 3年間の取り組み内容

1. 平成15年度

重点：英語をいかに効率的にインプットさせ、定着させるか

- (1) 少人数習熟度別講座授業(2クラス3講座)、語学学校講師のAll Englishの授業の導入によるリスニング力強化、ALTとのTTにおける教材開発と指導法の研究、英語教員による授業法研究の4点を相互に関連付けた研究
- (2) 国際交流活動の機会の提供による異文化理解や英語力、発想力、思考力、学習意欲への効果

○ 指導の検証—GTECおよびTOEIC(ポストテスト)、英語学習への興味・関心・意欲等の変化についての学習意識調査

2. 平成16年度

重点：インプットからアウトプットへの効果的な展開の仕方

→「訳渡し」を行うことで和訳に費やされる時間を最小限に抑えて言語活動 task のための時間を確保

15年度の研究(1)、(2)に加え、新たに取り入れた研究テーマ

- (1) リーディング授業でのタスクを用いた問題解決型学習の導入
- (2) インターネットを利用した発信型授業の促進がもたらす英語学習への動機付けや異文化理解の効果

○ 指導の検証—GTEC、学習意識調査、独自ライティングテスト実施と評価、異文化理解についてのアンケート調査

3. 平成17年度

重点：課題の再整理による研究開発の方向の確認と3年間のまとめ

- (1) 2年間の実践における課題と最終年度における改善策
 - 1) 課題の解決に向けての全学年指導共通方針の徹底
 - 2) 教師集団の協働化(教員がチームで指導)
 - 3) 目指す生徒像の明確化—「読んだり聞いたりした内容について、自分の考えや感情を英語で表現でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒」
 - 4) 「長野西高校 SELHi 研究全体構成図」、「学年指導目標」および「授業シラバス」の作成・改訂—3年間を見通した指導の徹底
- (2) 高大連携の強化と課題の達成に向けての授業形態や指導法の研究のまとめ
大学の英語科教育法専門教員による授業参観による直接指導、教科指導力向上のための講演会、模擬授業等を実施

○ 指導の検証—GTEC、学習意識調査、独自ライティングテスト実施と評価、異文化理解についてのアンケート調査

4. 具体的展開 (平成17年度を例に)

(1) 17年度研究課題の設定

- (1) ライティング及びスピーキング能力 (アウトプット) の向上につながるリーディング指導のあり方についての研究
- (2) ライティング及びスピーキング能力の効果的な測定及び評価方法の研究
- (3) 国際交流において、参加者との Authentic なコミュニケーションを通しての実践的コミュニケーション能力の育成および異文化理解の推進を図るための指導方法についての研究



(2) 課題の解決に向けての全学年指導共通方針と授業形態

- ① アウトプットにつながる効果的なタスク及び実際の言語活動を重視したリーディング授業→少人数習熟度別講座で実施
- ② 英語でのインプットを重視した授業(英語教員とALTによる英語で進める授業)
- ③ アウトプットを目的とした教材の精選
- ④ 4技能を関連付けた活動
- ⑤ 創造的思考力を育てることでコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした指導
- ⑥ ITを活用した授業



(3) 指導の実際

- インプットされた英語を理解・定着させ、さらにアウトプットに結びつけることを目指した指導
- 1. アウトプット能力の育成につながるリーディング指導での効果的なタスクの与え方、音読指導強化 → 内容理解の際、思考力を高める inferential question や自分の考えや感情を問う発問(personal involvement question)を積極的に行う
 - 2. 自己表現活動を重視----プレゼンテーション、スピーチ、ディベート、ディスカッション活動
 - 3. テーマに関するリサーチをベースとした e-mail writing, essay writing リーディング活動を重視しライティング力向上を図る



(4) 実際に英語を使用する場面の設定

- 1) 校内英語スキットコンテストの実施 (H16、17年度)
- 2) 国際交流プロジェクト(H15-17年度)
 - a) 信州大教育学部・工学部大学院に所属するアジア諸国からの地域在住外国人学生による研究分野と英語教育に関する講義
 - b) インターネットを活用した韓日異文化交流プロジェクト(韓国清錫高校との文化的価値観比較、英語版 News Web の制作)
- 3) 清泉女学院大学英語スピーチ・レシテーションコンテスト、翻訳コンテスト、長野県高校生ディベートコンテスト参加
- 4) オーストラリア語学研修旅行(1、2年希望者)、British Hills での English Camp(1学年希望者) (H15-17年度)



(5) 指導の検証

- 1. 英語習得レベルの診断
 - ① アウトプット能力を測定するための独自のライティングテスト、評価法開発
 - ② 語彙力の測定
 - ③ 外部テストにおけるリーディングおよびライティング能力の検証
 - ④ 生徒による自己評価 (アンケート等)
- 2. 指導の検証 診断テストおよび自己評価結果に基づき指導目標から見た指導の検証 → 指導内容、シラバスの改善・成績分析・学習態度や意欲・大学との連携・運営指導委員(大学の専門家等)による定期的なアドバイス



H17 全国公開授業風景



H17 高大連携 大学教員による模擬授業
(清泉女学院大学 Gregory Birch 先生による Task-Based Learning を応用した授業)

(6) 通常の授業活動と流れ (Procedure) ※下記の steps の中から教材等に応じて活動を選択して実践

① 《 Warm-up 》

様々な活動の中に、Topic of the day (Short sensible talk by the teacher) を必ず入れる。

② 《 Review 》

Vocabulary/ grammar check リーディング, ディクテーション, オーラルコンポジションなど

③ 《 Introduction of new material 》

リスニングによる課全体の概要把握, リーディングによる課全体の概要把握

④ 《 Communication Activities 》

1) 新出語句・内容の確認-----Q-A、T-F, Filling out blanks (Worksheet), etc. ペアワーク

2) タスクプリントを用いた問題解決学習 ←..... 表面的な理解から深い理解へと発展させる。Creative な力を養成

センテンス・サーチ, リーディング,

ライティングなど, 実践的コミュニケーション能力育成のための多様なタスク

タスク活動 (例)

課題を解決することをねらいとしてつくられた学習プリントを行うことを通して、内容の把握を深めたり、自分の考えをまとめたり、また、それを相手に伝えたりする。

3) Feed back-----ペアワーク, peer correction, etc.

4) リーディング, etc. 訳渡し

⑤ 《 Advanced Communication Activities 》

異文化理解や人間理解のための読み物教材 New reading material (教員が作成したもの、または authentic material ---which is closely related to the topic of the lesson) を読んで討論する。

⑥ 《 Consolidation 》

(指導: SELHi 運営指導委員 清泉女学院大学人間学部長 渡邊時夫教授)

IV 3年間の成果と課題

1. 長野西ライティングテストの開発—アウトプットの力を伸ばすためのリーディング授業を検証

(1) 長野西ライティングテスト (指導: 信州大学教育学部 酒井英樹助教授)

① 目的 日常の授業の検証「英文を読み、感じたことや意見を述べるライティングテスト」

② 実施 4月と12月 同じリーディング教科書で学んでいるA校1年生においても同時実施

③ 評価方法 指標としては、全体的評価、産出量(総語数・文総数)、文法的複雑性(T-unit*当たりの単語数、T-unit 当たりの clause の数)、正確さ(error free T-unit 数)について分析

*T-unit: One T-unit is composed of one independent clause together with whatever dependent clauses are attached.

(2) ライティングテスト開発の目的

独自ライティングテスト開発の主目的は本校の英語授業を検証することであり、GTEC や TOEIC 等の外部テストだけでは測れない Writing 力の伸びを指導との関連で検証することにおいて効果的であった。

(3) 分析結果

① 到達度別に分析すると、上・中位において Content (Creativity)、Grammar/Expressions, Structure において伸びが見られたが、下位については正確さに関して伸張が見られなかった → 下位者の学習への動機付けが課題である。

② 全体的評価と流暢さの指標(語数及び T-unit の数)は相関が高い → 全体的評価をする代わりに語数や文の数を調べてもよいと思われる。

③ リーディング授業でアウトプットにつながるタスク活動を効果的に取り入れ、教員による英語のインプットを増やし、音読を重視した指導を重ねることがライティング能力に効果的であることが他校比較において検証された。

2. 教材の共有と教員集団の形成

(1) 教師集団の協働化

本研究開発事業は全校生徒対象であったため、各学年の教員集団にとどまらず連携を密にして英語科全員がチームで指導することを課題として取り組む。抜本的な授業改善を目的とした指導力向上のため、互いの授業を積極的に公開し、具体的指導について学年の枠を越えた話し合いの機会を設けるよう心がけ、指導目標に沿って統一した指導の徹底を図ることができた。

(2) 教材の共有化

効果的な言語活動を導くと考えられるタスクプリントを学年生徒全員に配布するよう努めるなど教材の共有化を重

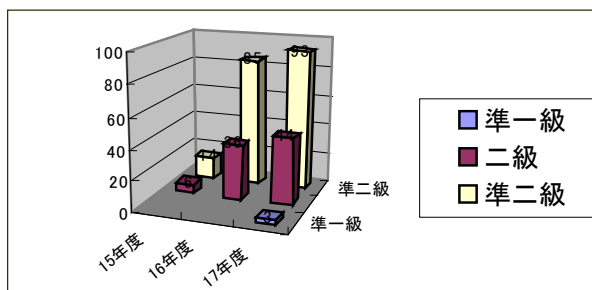
視し、校内サーバー上でのプリントデータの共有化を進めている。

3. 諸指標に見る英語力の伸張

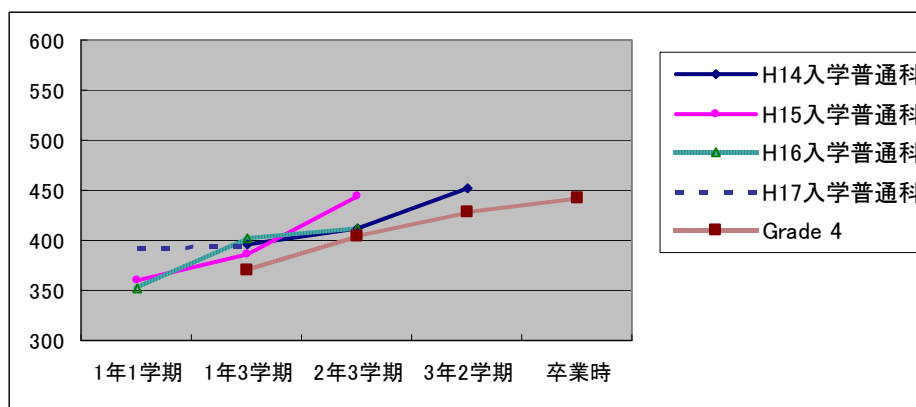
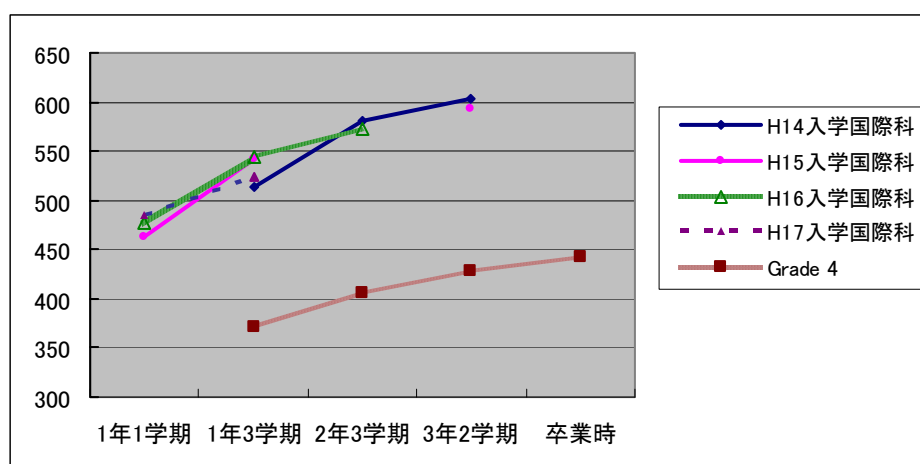
◇ 実用英語検定合格者数 [年度ごとの合格数]

全校	14年度	15年度	16年度	17年度
二級	32人	56人	44人	43人
準二級	89人	29人	101人	81人

平成15年度入学生 (SELHi対象学年 283名)
[累積人数]



◇ 英語コミュニケーション能力テスト (GTEC: ベネッセ)



4. 進学実績

過去3ヵ年国公立大学合格者数

H15年度	H16年度	H17年度
55	51	56

SELHi指定後の成果として、国公立大学・難関私大への合格率が上昇したことが挙げられる。特に17年度(3年目)では国際教養大・東京外国語(外・英)・大阪(法)・大阪外国語・上智(外国語英語)・国際基督教・慶応(法)・筑波(国際)・静岡県立(薬)等に合格を果たした。

V 3年間の取り組みを生かす今後の計画

1. 3年間の実践の中で開発されてきた指導法や評価法の継続と更なる改善
2. SELHi研究の普及のための研究成果のWeb化および教材等のデータベース化
3. 教員の協働性を重視し、互いの連携を密にした指導の徹底